

[4] 地域住民のニーズ等の把握

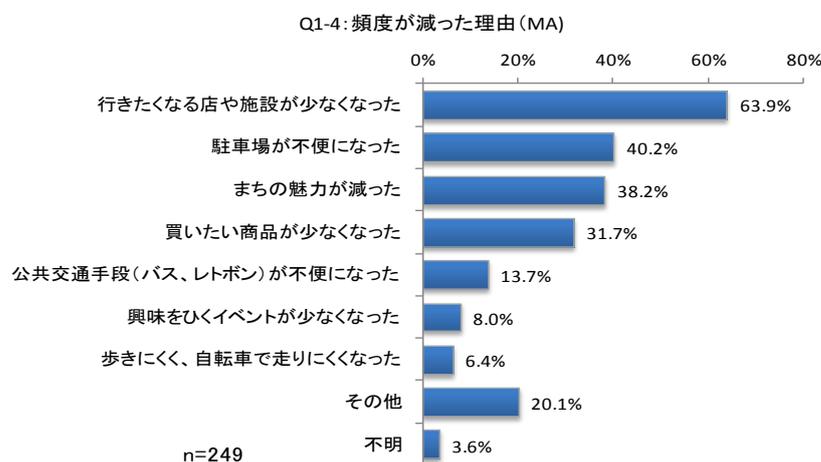
(1) 中心市街地活性化に係る市民アンケート（平成25年度）

前計画策定時と実施後の市民志向の変化等を把握するため、平成26年2月から3月にかけて、平成19年市民アンケート（以下「前回」という。）実施時と同様に、市民約2,000人を対象に、郵送によるアンケート調査を実施した。

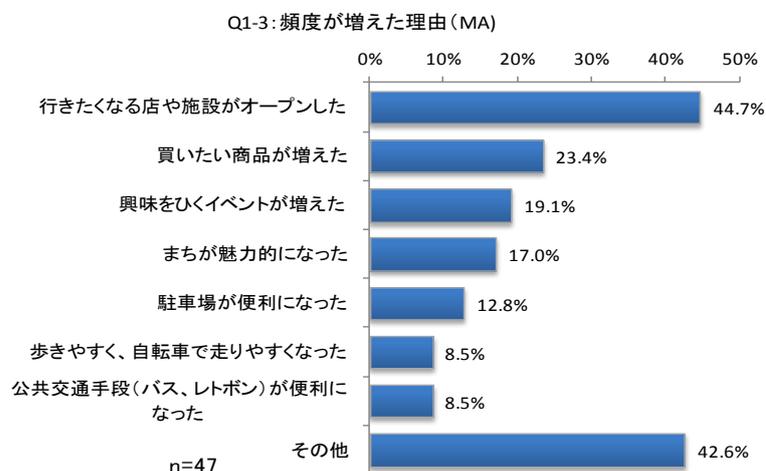
中心市街地に行く頻度は、前回2位の「ほとんど行かない」が8%増え（29.3%）、前回1位の「月に1～2回」（27.9%）と順位が逆転した。

前回からの頻度の変化についても、「減った」（32.6%）が「増えた」（6.2%）の5倍の回答となっており、来訪機会減少の傾向が続いていることが分かる。

頻度が減った理由は「行きたくなる店や施設が少なくなった」（63.9%）が最も多く、次いで「駐車場が不便になった」（40.2%）となっており、中心市街地の魅力の減少や小規模駐車場の増加による分散化などの影響が主な原因と考えられる。



反対に増えた理由では「行きたくなる店や施設がオープンした」（44.7%）が最も多く、空き店舗対策や拠点形成事業などが一定の効果を示しているといえる。

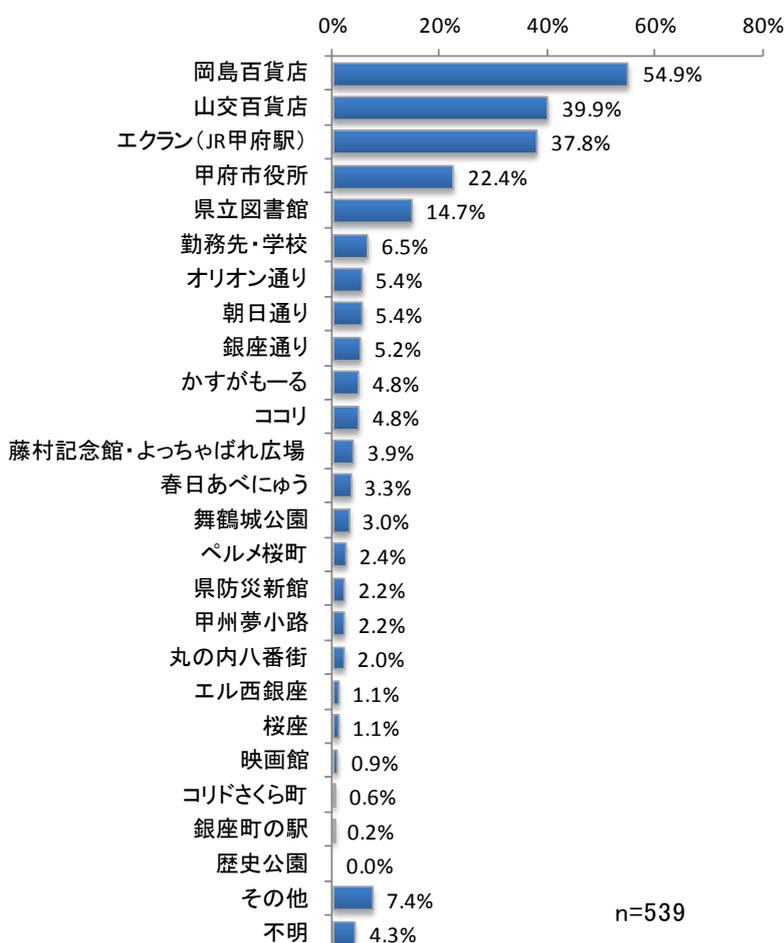


中心市街地への交通手段は、最も多いのが「乗用車」(62.2%)で、次いで「自転車」(25.2%)、「バス」(19.1%)、「徒歩」(18%)の順となっており、前回と順位に変化はないが、乗用車の割合がやや減少(△2.5%)している。

平日中心市街地へ行く目的では、最も多いのが「公共機関への用事」(32.3%)で、次いで「最寄品(日用必需品)の買い物」(28.8%)、「飲食(外食)」(23.8%)の順となっており、前回と順位に変化はないが、買い物目的が減少し、飲食、通院目的がやや増加している。

休日においても、前回とほとんど順位は変わらず、「飲食(外食)」(25.2%)が最も多く、次いで「最寄品(日用必需品)の買い物」(24.3%)となっているが、平日同様、買い物目的が減少し、飲食目的がやや増加しているほか、イベント目的も増加している。

Q5: 中心市街地ではどこに行くことが多いですか(MA)

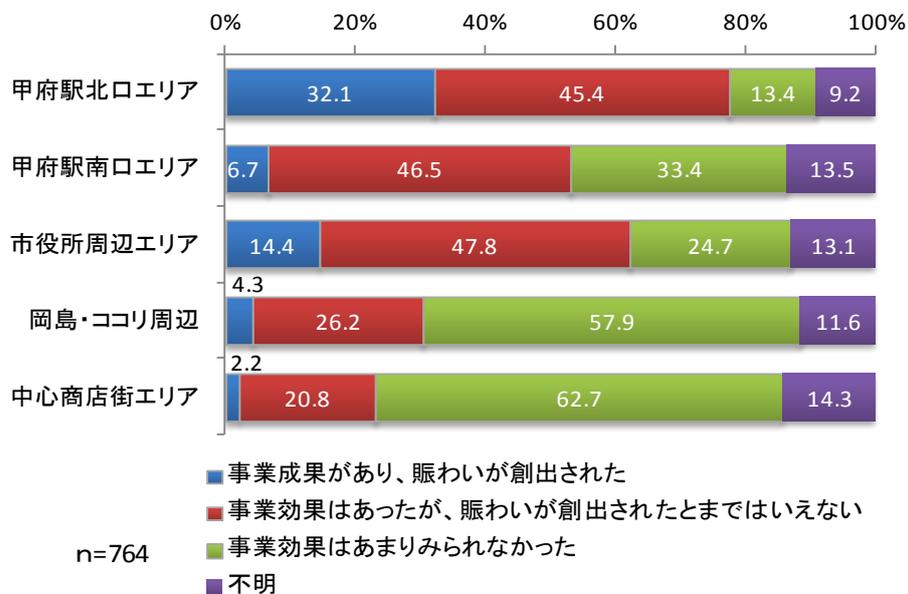


中心市街地で行くことが多い場所は、最も多いのが「岡島百貨店」(54.9%)で、次いで「山交百貨店」(39.9%)、「エクラン(JR甲府駅)」(37.8%)といった大型小売店となっており、前回の傾向とほとんど変わっていないが、前計画で実施した県立図書館移転等、甲府駅北口エリアでの取組による新たな拠点の形成や甲府市新庁舎の割合も高い。

中心市街地はにぎわっているかについては、最も多いのが「あまりにぎわっていない」(50.3%)、次いで「全然にぎわっていない」(38.6%)となっており、前回と順位及び回答割合が逆転していることから、前計画の取組がある程度発現していると考えられる。

エリアごとの事業効果とにぎわい創出は、「甲府駅北口エリア」(32.1%)が最も高く、次いで「市役所周辺」(14.4%)であるが、賑わいが創出されたとまでいえないという回答も多く、「岡島百貨店・ココリ周辺」「中心商店街エリア」については事業効果もあまり感じられず、今後の取組が必要なエリアと考えられる。

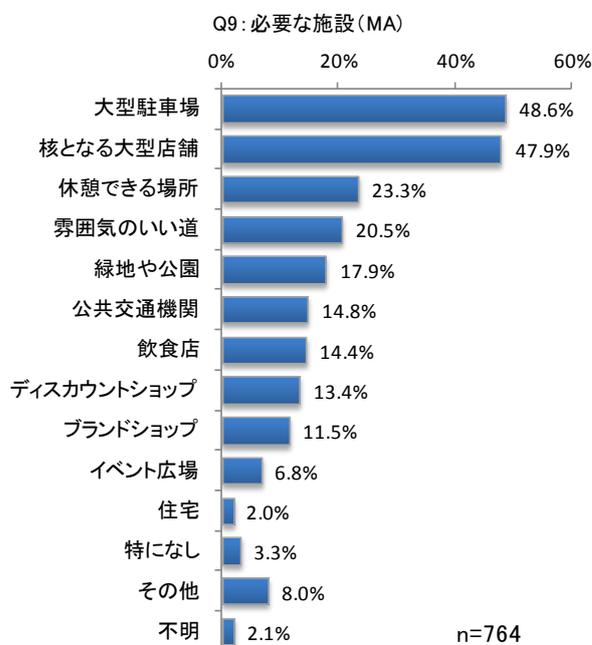
Q6-2: エリアごとの活性化については、
どのように感じられるか(SA)



中心市街地の好きなところは、最も多いのが「行きつけの店・場所がある」(34.6%)で、前回と順位の変更はないが、第2位の「お城や公園がきれい」(27%)が前回比で10%以上増加しており、甲府駅北口の拠点形成事業の成果が見られる。

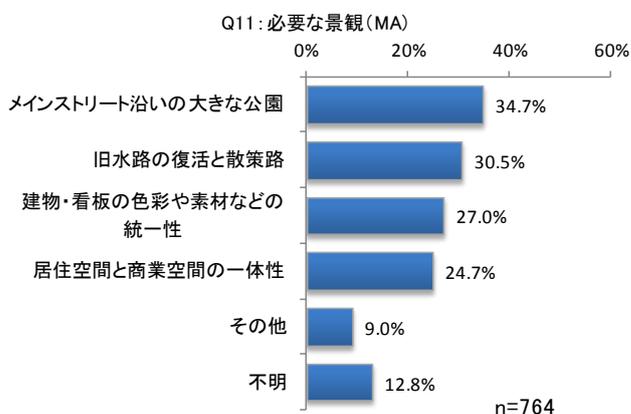
一方、中心市街地の嫌いなところは、最も多いのが「活気がない」(47.8%)で、順位については前回とほとんど変化がない。

中心市街地に必要な施設は、最も多いのが「大型駐車場」(48.6%)で、次いで「核となる大型店舗」(47.9%)となっており、順位は前回とほとんど変わらないが、大型駐車場がやや減少し、核店舗がやや増加していることから、商業施設の充実が望まれていることがみてとれる。また、「イベント広場」(6.8%)の割合が7%下がっており、甲府駅北口の拠点整備事業によってイベント広場の整備ができ、有効に活用されていると考えられる。

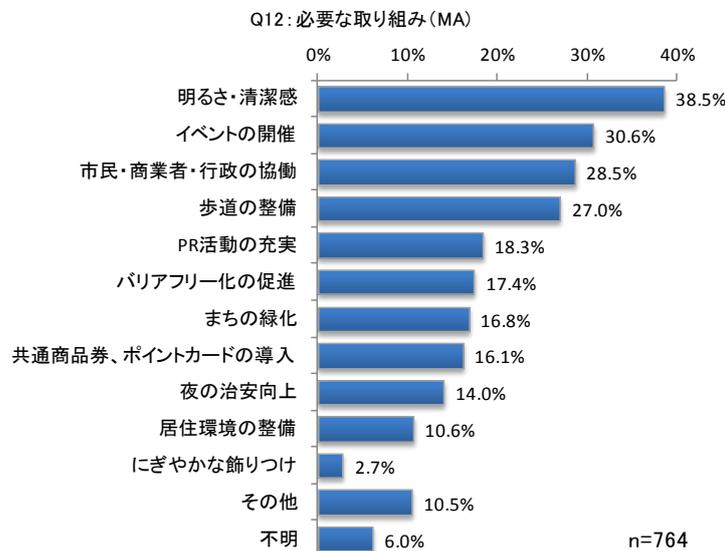


必要な都市福利施設は、前回上位だった「市役所」、「図書館」の順位が下がり、前計画での整備が認知されている。

中心市街地の景観に必要なものでは、最も多いのは、前回と同様「メインストリート沿いの大きな公園」(37.7%)だが、前回4位だった「旧水路の復活と散策路」(30.5%)が10%以上の増で2位となっており、魅力的な景観を備えた、快適な回遊道路環境の充実が求められていることがうかがえる。



中心市街地を活性化するために必要な取組では、最も多いのは「明るさ・清潔感」(38.5%)で、以下の順位においても前回と大きく変わることはなかったが、追加項目である「歩道の整備」(27%)に多くの回答が寄せられた。



自動車交通では、前回と同様、最も多いのは「道路が混雑している」(21.1%)で、前回と傾向に変化はないが、「駐車場を見つけにくい」(22.5%)がやや増加しており、駐車場の利便性向上が求められる。

公共交通に望むものは、前回と同様、最も多いのは「中心市街地へのバスの運行頻度を増やす」(31%)で、次に「割引料金制度を拡充する」(13.6%)となっており、前回と傾向は変わっていない。

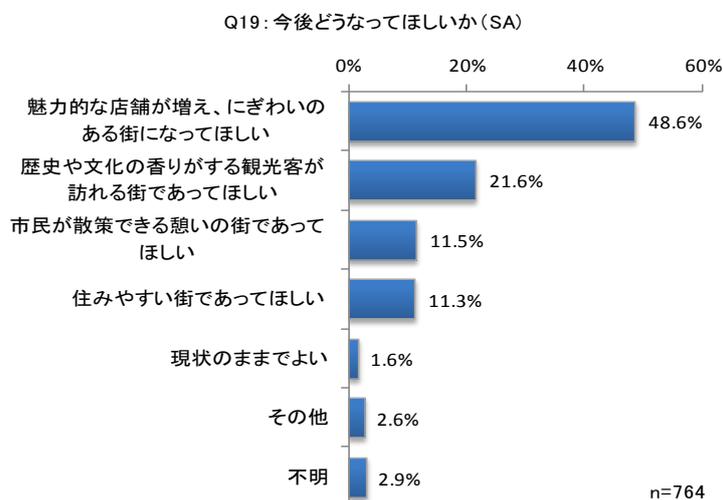
中心市街地を歩いて気づくことは、最も多いのは「雰囲気の良い店・場所が少ない」(52.6%)で、他の順位とも前回と同じ結果であった。

中心市街地への移住希望は、14%となっており、前回から大きな変化はないが、「住みたくない」(72.8%)が約5%減少している。

中心市街地に住む利点・住みたい理由は、前回と同様「駅に近い」(53.4%)、「車を使わないで生活できる」(40.9%)、「商店街に近い」(28.5%)の順となっている。

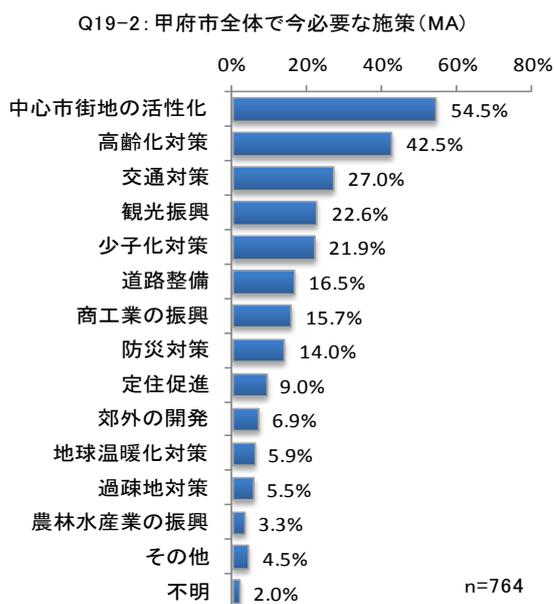
中心市街地で住んでいる住居・住みたい住居は、最も多いのは「一戸建て(購入)」(33.7%)、次に「民間の分譲マンション」(24.4%)となっており、前回から大きな変化はない。

中心市街地は今後どうなって欲しいかは、最も多いのは「魅力的な店舗が増え、にぎわいのある街」(48.6%)で、次に「歴史や文化の香りがする観光客が訪れる街」(24.6%)、「市民が散策できる憩いの街」(11.5%)の順となっている。前回と順位に変化はないが、観光客が訪れる街を希望する回答が約5%増えている。

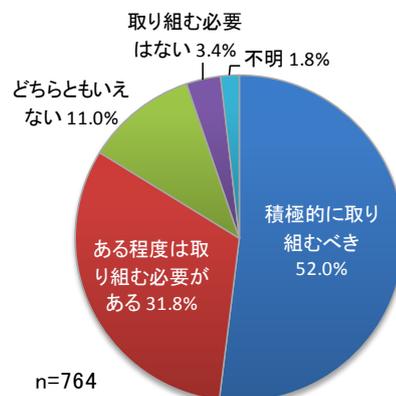


甲府市全体で今後必要な施策は、最も多いのは「中心市街地の活性化」(54.5%)で、次いで「高齢化対策」(42.5%)となっている。

また、中心市街地活性化に取り組むべきかについては、最も多い「積極的に取り組むべき」(52%)と、次の「ある程度は取り組む必要がある」(31.8%)を合わせると、約84%となり、中心市街地の活性化に高い関心が寄せられていることが分かる。



Q19-3: 中心市街地活性化に取り組むべきだと思いますか(SA)



年代別クロス集計では、中心市街地へ行く目的において、「最寄品（日用必需品）の買い物」では年代が上がるにしたがって増えてくるほか、「飲食（外食）」は10歳代、20歳代が多くなっている。また、中心市街地に遊びに来るのは、10歳代が多い。

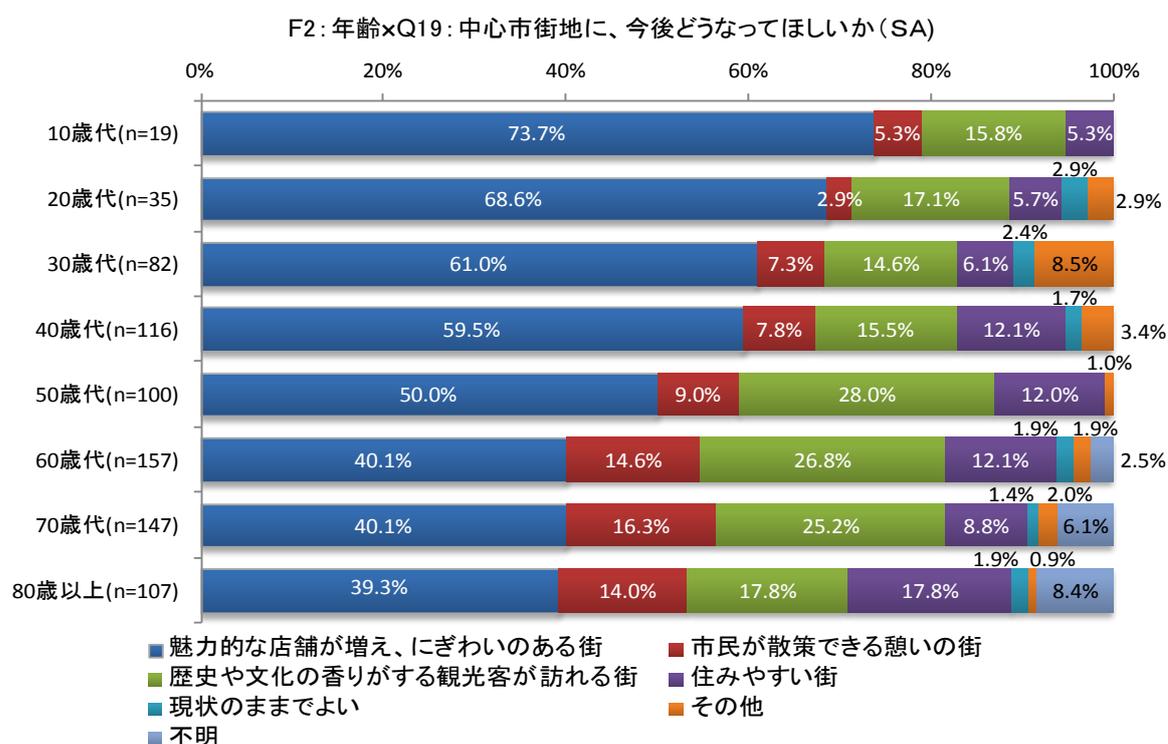
中心市街地で行くことが多い場所では、ココリにおける10歳代の占める割合が圧倒的に多く、ホビータウンの効果とみられる。

中心市街地の嫌いなこところでは、「娯楽施設が少ない」で10歳代が大半を占め、高齢者は「休むところが少ない」と回答している。

中心市街地を活性化するのに必要な取組では、10歳代が「明るさ・清潔感」を多く選び、30歳代、40歳代を中心に「イベントの開催」を選んでいる。また、高齢者は「歩道の整備」「バリアフリー化の促進」を多く選んでいる。

中心市街地の公共交通機関については、10歳代が「中心市街地へのバスの運行本数を増やす」を多く選んでいる。

中心市街地に今後どうなって欲しいかでは、最も多い回答である「魅力的な店舗が増え、にぎわいのある街」において、年代が下がるにつれ、回答が多くなっていく。また、年代が上がるにしたがって、「市民が散策できる憩いの街」、「歴史や文化の香りがする観光客が訪れる街」の回答が増えている。



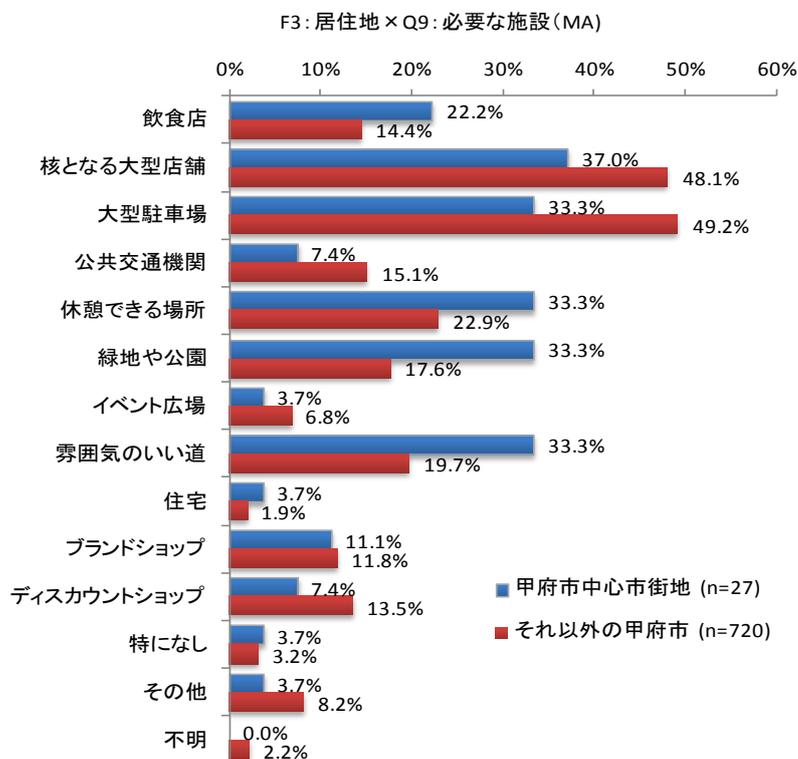
居住地別のクロス集計では、中心市街地へ行く目的において、中心市街地居住者は平日では「最寄品（日用必需品等）の買い物」（56.5%）と最も多く、次いで「飲食（外食）」（39.1%）となっているが、休日では「飲食（外食）」（56.5%）が最も多く、次いで「最寄品（日用必需品等）の買い物」と「ウィンドウショッピング、散歩」（共に39.1%）の順となっており、中心市街地以外の居住者は平日では「公共機関への用事」（32.5%）が最も多く、次いで「最寄品（日用必需品等）の買い物」（27.8%）となっているが、休日では「ほとんど行かない」（24.7%）が最も多く、次いで「最寄品（日用必需品）の買い物」（24.5%）、「飲食（外食）」（24.3%）の順となっている。

前回と比較すると、平日においては順位の大きな変化はないが、休日の中心市街地居住者においては「買回り品（装身具、ハンドバック等）の買い物」や「遊び、娯楽」が減り、飲食やウィンドウショッピング、散歩が増えていることから、買い物や娯楽の志向が郊外へ向いていることがうかがえる。

中心市街地に好きなところでは、「お城や公園がきれい」という回答が、前回と比べて両者とも10%以上増えている。

中心市街地の嫌いなところでは、「活気がない」が前回と比べ、中心市街地居住者は20%減り、中心市街地以外の居住者はほぼ変化がない。これは、中心市街地における各種取組が、周辺市民に十分に認知されていない状況がうかがえる。

中心市街地に必要な施設では、中心市街地以外の居住者の核店舗志向が強まり、中心市街地居住者の緑地、公園、休憩場所、雰囲気の良い道のニーズが高まっている。



(2) 中心市街地まちづくり会議

中心市街地活性化基本計画の評価と検証を継続的に行い、市民目線に重点を置くため平成21年2月に設置し、多数の公募委員が参加する中で、平成24年度までに2期、13回の会議と1回の先進地視察による意見交換、研究等を行い、表出した課題の解決等に必要な取組などについて、市に対し2回の提案を行った。

取りまとめられた主な課題は、ハード中心の傾向があり民間側の存在感が薄い、指令役の人材を欠いている、魅力づくりが十分でない、事業効果が成果に結びついていない、施設を活用するソフトの部分が不足といったもので、主な提案内容は、車に過度に依存しないまちづくり、合同会社まちづくり甲府の機能強化、タウンマネージャーの活用、積極的な情報発信、郊外との差別化、ユニバーサルデザイン都市の実践、既存資源の活用など、区域外からの集客と個性的魅力の創出、区域内の生活環境の向上を重視したものの。

(3) 甲府タウンレビューチーム

甲府市のまちづくりに関する現状と課題を共有し、課題解決策の議論を行う中で、その具体的な対応について関係者に要請するとともに、甲府市のまちづくりに積極的かつ主体的な民間団体等の活動を推進するため、その取組状況や計画等に対して幅広い視点から意見提案を行う会議。

平成24年10月に設置し、産業界や学識経験者、まちづくりを実践する団体、甲府市職員等で構成する会議で、これまで(ア)商店街対策、(イ)中心市街地活性化基本計画、(ウ)商店街とつくる中心商店街再生戦略の各テーマについて集中的に討議し、(ア)、(イ)については中間整理を行い、関係機関への対応要請をおこなった。

「商店街対策」においては、次の3つの取組が示された。

- ①商店街対策の抜本的再構築
- ②民間のやる気を引き出すための仕掛け
- ③ボトルネック（ココリ、甲府銀座ビル）の解消

「中心市街地活性化基本計画」においては、次の7つの主要課題が示された。

- ①甲府駅南口周辺地域修景計画に関する市のスタンスの明確化
- ②観光・文化施策の戦略的展開
- ③定住人口の維持と居住環境の整備
- ④街のデザイン、緑化、広場の整備など
- ⑤ストックの管理とリノベーションの推進
- ⑥中心商店街の活性化・大規模店舗との連携
- ⑦効果的な駐車場・駐輪場の配置